

シンポジウム開催にあたって

実行委員会委員長 内山 勝利

今回の第7回国際シンポジウムは、9月22日（日）と23日（月）の2日間にわたって国立京都国際会館で開催された。これはわれわれのプロジェクトが開催する最終の大きなイベントとなるものであり、5年にわたる活動の一つの締めくくりに位置するものであったから、これまでにない盛大な大会にしようと、比較的早くから準備に入った。「創造の源泉としての古典」を統一テーマとし、主要な古典領域のそれぞれからすぐれた学者を招請し、古典のもつアクチュアリティに焦点を当てた講演をしていただくことを企画の柱とした。また、講演ごとに特定領域側からのコメンテーターを配し、さらに質疑の時間もやや長めに設けることで、文字通りにシンポジウムとしての性格を鮮明にすることにも意を用いた。幸い予想を越える多数の方々にご参加いただき、終始充実した2日間の大会となった。われわれの当初の目標がどこまで達成されたかは、なお未知数であるにせよ、次へつながる確かな一ステップを確保することはできたのではないだろうか。

周囲を美しい洛北の景観に恵まれた国立京都国際会館は設備もよく整い、担当職員の方々からは行き届いた配慮に与ることができた。なお、われわれのシンポジウムとしては、今回はじめて同時通訳システムを採用したが、これはこうした大会を活性化させるためには、（いまさら言うまでもないのかもしれないが）けっして些細ならざる効果をあげうるものに思われた。